

英文解釈の勉強法



英文解釈って
なんで必要なの？



返り読みしなくて
よくなるんだ！

速く読むには
どうすればいいの？



速く読むための
3要素がわかった！

音読って
なんで大事なの？



音読で「英語アタマ」が
手に入るんだ！



「英文解釈」は受験英語の最重要分野

英文解釈に割く時間で英語力が決まる

入試英語で最も重要な分野は「英文解釈」です。入試の英文が長くなるにつれて「速読」だの「スキヤニング（拾い読み）」といった言葉がもてはやされてきますが、1つの英文が正確に読めないのに、こういった技に走るのは言語道断です。「木を見て森を見ず」といつて受験生に発破をかけるのは一見カッコいいアドバイスに見えるのですが、合格する受験生に必要なのは「木を見て木を見る」力です。1文を正確に訳せる力を身につけるには「英文解釈」をじっくりやる必要があります。①「英文解釈」にどれだけ時間を割けるかで、英語力が決まります。

① 英文読解はもちろん、リスニングにも大きな影響を及ぼすのが「英文解釈」なんです。

① オススメの英文解釈本と使い方4つのポイント

理想は英文法を完全に終えてから英文解釈に入ることですが、受験生の場合、現実問題として、英文法と同時並行で英文解釈を進めることになるでしょう。

英文解釈は「**大学入試 世界一わかりやすい 英文読解の特別講座**」に取り組んでください。「5文型の本当のメリット」や「SVの発見」など、今まで学んだ英文法の知識を、実際の読解に活用していきます。

文法の問題なら〇×がハッキリしているのでわかりやすいのですが、英文解釈は「どこに注目しながら解説を読んでもいいかわからない」という悩みをよく聞きます。そこで、いくつか注意点を話します。

Books



「大学入試 世界一わかりやすい 英文読解の特別講座」
(関 正生 / KADOKAWA)

「1文を確実に訳せる」読解力と、英文を読むときの「アタマの使い方」を解説しました。また「倒置」「強調構文」など、重要なのにないがしろにされる分野までキッチリ解説しました。全51テーマありますので、1日2テーマで1カ月で終わります。

① 構文をとる

英文解釈は「構文を正確にとる」練習ですから、S・Vや、接続詞・関係詞などをきっちり確認していただく下さい。これが一番大事な作業です。

② 和訳する

構文の次は「日本語訳」です。「単語をつないだだけ」の訳ではなく、きちんと「構文を意識しながら」の和訳を書いてください。

③ 解説熟読

先ほどのオススメ本は、英文を読むときの「アタマの使い方」を文字に落とし込んだものです。解説をダラダラ読んでしまうと「なんとなく」読み終わってしまいます。「次からは、こういうことを考えながら読めばいいのか」と確認しつつ、1文1文英語に戻りながら読んでください。

英文解釈は「構文」を確認するためのものですから、「(S・Vなど) 構文がきちんと把握できたか」を最優先に勉強してください。「和訳の自然さ」には(この段階では)さほどこだわらなくてOKです。

④ 英文熟読 & 音読

大変なのは、以上の①②③ですが、これだけでは効果は出ません。この④の作業でグイグイと力がついていきます。

英文解釈の勉強は、必ず「英語に始まり、英語に終わる」ようにしてください。大半の人が「英文↓和訳↓解説」で、すぐ次の問題にいつてしまうのですが、和訳や解説を読んだだけでは「理解」しただけで、まったく「定着」していません。

もっと言えば、それは結局「(和訳を読んで) 日本語で理解しただけ」なんです。⁰²
 「英文そのものを理解」しないと実力にはなりません。まちがっても「英文↓日本語」で終わりにするのではなく、「英文↓日本語↓(もう一度) 英文」という順番で勉強してください。最後にもう1回英文を読む習慣をつけるだけで、普通の勉強より「2倍」英語に触れられるわけです。

「今日から英語の勉強を2倍に増やせ」と言われても、普通に考えたら難しいですが、こんな心がけで実現できるわけです。ちなみに僕の授業では、「英文↓日本語↓(あと3回) 英文」で、普通の4倍、英語に触れさせます。

仕上げは「音読」ですが、実はこれが超重要なので、次の項目でじっくり説明します。

⁰² この日本語で理解しただけと英文そのものを理解するとの区別を認識していない人が英文解釈やっても力がつかないとかとんでもないことを言ってしまうわけです。

今日
からは…

「英文解釈」をやるかやらないかで合否が分かれる！
必ず「英文→日本文→英文」の順番で勉強しよう！！

02

「速く読む」のに必要な3つの力

「飛ばし読み」なんて論外！

世間に蔓延^{はびこ}る「速読」や「スキヤニング（拾い読み）」といったテクニックは絶対にやめるべきです。

確かに、入試の英文量は増えていきます。そこで「何かテクニックがあるんじゃないか」と思うのは仕方のないことかもしれませんが、そんなことをやっていると、伸び悩んでしまいます。

東大・早慶に合格している受験生は、まちがっても「テクニックを使って読むから読み終わる」ではありません。「**振り返りしないで正確に読んでいるから**

読み終わる」だけなのです。彼らは「飛ばし読みで主張を見つける」のではなく、「全文きちんと読んでから主張が見つかる」のです。

入試の英文は内容も複雑です。ただでさえ複雑な英文を、自分のキャパシティ以上のスピードで読む「速読」や、一部しか読まない「飛ばし読み」なんてしてしたら、もつとわからなくなります。¹⁾

「全部読む」のは当たり前のことです。この当たり前力をつけるのは大変なことではありますが、みなさんはこれを目指してください。

速読とは「急いで読む」ではなく「正しく読む」

たとえば、スポーツでも「スピードを上げる」には、たくさん要因が複雑に絡みます。本気で「速く走りたい」と言う人に「たくさん走るといつか速くなる」と量だけで解決しようとはしないはず。テクニクだけで解決するのムリですよ。まずは正しいフォームが必要です。この「正しいフォーム」こそ「英文解釈で培った精読力」なんです。

さらに、「正しいフォーム（英文解釈）」に加えて、「筋力（単語の瞬発力）」と

「正しいフォームを体に覚えさせる練習（音読）」が必要です。この3つの要素が相互に作用して、結果的に「速くなる」わけです。

速読に必要な3要素

- ① 単語の瞬発力（0.1秒で単語の意味が浮かぶか？）
- ② 英文解釈力（英語の構造を正しく把握できるか？）
- ③ 音読（日本語を介さずに英語をそのまま理解できるか？）

① 単語の瞬発力（0.1秒で単語の意味が浮かぶか？）

「読むが遅いんです」と悩む人の大半が、ここを見落としています。単語を見て「えーと、この単語の意味は……」なんてやっていたら、そのたびに英文を読む作業がストップしてしまいますよね。

たとえば、1つの単語を思い出すのに2秒かかったとします。もし読んでいる英文の中にそういう単語が10個あったら、それだけで20秒（＝2秒×10個）もロスすることになるわけです。

「単語の意味をバツと思いつけない」から英文を読むのが遅くなるんです。ですか

¹⁾ 僕自身が受験生のときも飛ばし読みなんて一度もしたことありませんし、25年以上の予備校の授業の中で一度たりともそんな読み方を教えたことはありません。

ら、0.1秒で単語の意味が思い出せれば、それだけで英文を読むスピードが上が
るはず！⁰²

② 英文解釈力（英語の構造を正しく把握できるか？）

英文解釈についてはもう十分に説明しましたので、1つだけ補足を。英文解釈を
やると、英文の構造を「予想する力」がきます。予想できれば読むスピードも上
がっていきます。

③ 音読（日本語を介さずに英語をそのまま理解できるか？）

英語を「速く」読むために必要なのは「英語を英語のまま理解できる」力です。
そのために必要なのが「音読」です。最近では音読がいろんなところで勧められてい
ますが、音読の最大の効果はほとんど語られません。音読には「英語アタマ（英語
を英語のまま処理できる力）」を養う効果があるんです。英文解釈できちんと理解
した英文を何度も音読して脳に染み込ませます。1つの英文を最低30回、目標は50
回音読します。⁰³

2、3回英文を読んだだけでは、いちいち日本語に置き換えないと意味が理解で

きないかもしれませんが、何度も繰り返して同じ英文に触れていくうちに、英語の
まま処理できるようになるんです。英文を目で見ながら、意味がどんどん浮かぶよ
うになります。

これができるようになれば「日本語を介さずに」英文の内容が浮かぶようになり
ます。

「日本語に訳す+日本語で理解する」時間がカットされるので、英文を読む
スピードが劇的に上がります。

もちろん、それだけですごいことです。ですから時間はかかります。毎日30分音読して2、
3カ月かかります。それでも、絶対に音読をやってください。

劇的な読解スピードが手に入る音読のやり方

僕の言う「音読」は「英語アタマ」を作るものです。ですから、何も考えず声に
出すだけでは効果はありません。次のことに気をつけてください。

⁰² しかも、0.1秒で思い
出せない単語は「すぐ忘
れちゃう」んでしたよね
（76ページ）。単語の窮究
力をつけておくと、最後
はこのように長文で活き
てくるんです。

⁰³ 音読は僕が英語ができる
ようになった最強の武器
です。受験勉強で読んで
英文はすべて50回読みこ
みました。

音読の注意点

- ①必ず声に出す（黙読だと無意識のうちに目で飛ばしてしまう）
- ②声の大きさは無関係（ボソボソで十分ですのでカフエでもできます）
- ③何も考えず字面だけ追っても効果はない
 - (a)まずは英文の構造（英文解釈）を意識しながら10回
 - (b)次に英文を読みながら意味が浮かぶように10回
 - (c)最後は自然なスピードで10回
- ④目標は1日30分。早ければ2カ月、普通は3カ月で効果が出る
- ⑤同じ英文を一気に30回も読む必要はない
1日5回×6日＝合計30回が目安。
- ⑥サボってしまったら、翌日は1時間音読。2日サボったら最初からやり直しと考える（厳しいですが「英語アタマ」はそんなにカンタンには手に入りません）

ダラダラ音読しても意味がないので、1日30分集中して取り組みましょう！ 3カ月後にきつと「劇的な読解スピード」を手に入れることができます。おまけに集

中力もつきますよ。

今日は…
からは…

「単語の瞬発力×英文解釈力×音読」で、
「英語アタマ」と「劇的な読解スピード」を手に入れよう！

長文読解(多読・長文演習)の
勉強法



多読しても
伸びないけど……



多読でハマりやすい
ワナがわかった!



長文で時間が
足りない……



時間が足りなくなる
原因があるんだ!

01 「解く力」の鍛え方と「多読」について

🗨️ 志望校がマーク式でもやっておきたい記述の練習

自分の志望校が完全にマーク式(もしくはマーク中心)の場合、まったく記述の練習をしないのが普通かと思えます。でも、記述の練習は、後々必ずマーク式の問題にも活きてきます。

というのもマーク式の問題は、レベルが上がるほど、ひっかけの選択肢がやっかだからです。そのひっかけ選択肢に惑わされて、最後はミスすることがよくあります。

もし記述式の練習をしていれば「自分で解答を作る」力が養われます。その自分

が作った解答が一番近い内容を「4つの選択肢の中から探す」という姿勢は、積極的に正しい選択肢を探す姿勢につながり、かつ、ひっかけに惑わされなくなります。

共通テストで160点以上を出せる人でも、長文の設問で必ず1つ2つ取りこぼすのは、マークの練習しかしていないからです。

ぜひ、記述の問題にも取り組んでください。損することなど1つもありませんよ。ここでのオススメは「**関正生の The Rules 英語長文問題集**」です。

🗨️ 多読とは「ラフに読むこと」じゃない!

「精読」が完成したら、次は「多読」と「長文演習」に進みます。

まずここでは「多読」についてお話しします。「**大学入試問題集 関正生の英語長文ボラリス**」を使ってください。

📖 Books



「**関正生のThe Rules英語長文問題集**」(関正生/旺文社)
入試問題を使って、「長文の読み方・解き方」を重要ルールとしてまとめた本です。レベル1は「入試基礎レベル」、レベル2は「日東駒専レベル」(ボラリス1と同じレベル)、レベル3は「MARCH・国公立レベル」(ボラリス2と同じレベル)、レベル4は「早慶上智以上のレベル」(ボラリス3と同じレベル)です。必ずしも4冊やる必要はありませんが、同じレベルも出てくるので2冊以上やると、復習にもなって、相乗効果があります。



「**大学入試問題集 関正生の英語長文ボラリス**」(関正生/KADOKAWA)
英文法同様、レベル1「日東駒専レベル」、レベル2「MARCH・国公立レベル」、レベル3「早慶上智以上のレベル」です。長文はいくらでもやってほしいので、できれば2冊は取り組んでください。3冊とも最新入試に出る12テーマを揃えているので、同じテーマでレベルの違いを体感できます。また、「本番で同じテーマが出た!」という声をものすごくたくさん頂いている問題集です。

そして多読用として何度も音読してください。

ここで「多読」の注意点を話します。

せっかく英文解釈をやってきて、ここからグイグイと成績を伸ばすはずなのに、イマイチ伸びない人が多いんです。その原因は、「多読」は「たくさん読むから雑に読んでもいい」と思い込んでしまうことなんです。

「多読」といっても、「飛ばし読み」や「ざっくりなんとなく読む」ということではありません。まちがつても「精読しなくていい」ということではありません。

精読は完成しているの、いちいち英文の構造を確認しなくても「英文の内容に集中できる」^①「だからたくさん読んでいける」というのが「多読」なんです。

当然、多読をしながらも、頭の中では常に「構文をきちんと取る」という作業を忘れてはいけません！

音読は多読の時期も続ける

もう1つ注意するのが「音読」です。^②

多読の時期に入ると、触れる英文の量が一気に増えます。そこで「もう音読しなくていい」と勝手に思い込む受験生がけっこういます。

音読のところであまり言わなかった通り、「音読しない英文は身につかない」のです。どんなに英文が増えようとも、音読は絶対にやってください。

さすがに、1つの英文につき30回はきつい(勉強した英文が多すぎて、音読し切れない)かもしれませんが、普通の英文(問題集などの難しい英文)は20回、易しい英文(共通テスト)は3回くらいだけでもかまいませんが、それでも必ずやってください。^③

過去問で200題の長文をこなそう

ここまでやったら、後は手当たり次第に長文を読んでください。書店で気になった長文の問題集を立ち読みで1題解く力はあるはずですが、解説が気に入ればすぐ購入、できるだけ早く終了して、また次の問題集に向かいましょう。

^①「またか」と言われそうですが、それだけ大事なことです。

^②といっても、僕の教え子の中には30回以上こなしている生徒もたくさんいますので、気合でトライしてください。

今日は…
からは…

「多読」と言っても雑に読まない！
「丁寧にたくさん、そして音読」を忘れずに！！

ただ実際は、この後は過去問に取り組むことになるかと思えます。過去問を使って、この時期から200題の長文をこなすことが目標です。⁰⁴
1年分の過去問の中に4題長文があるとしましょう。1つの大学の過去問を7年分やれば、全部で28題の長文をこなしたことになります。これを志望校7校分こなせば、全部で196題になります。

7年分の過去問がないときは、私立大の場合、同じ大学のほかの学部の問題をやるといいでしょう。国立なら、レベルが同じくらいの大学や、志望校の後期の問題をやってください。⁰⁴

もちろん、この時期にやる長文の問題集の数をこの200題の中に含めてもかまいません。ただし、共通テストの問題は数に入れないでください。

確かに共通テストの過去問をやることも大事ですが、共通テストの長文は難関大と比べるとあまりに簡単すぎるので、あれはまったく数に入りません。ご注意を。

⁰¹ たいした数ではありませ
ん。「受かる」受験生は当
然のようにやっています。

⁰⁴ 「問題が似ているかどう
か」で迷わないようにし
てください。迷ってる時
間がムダですので、パッ
と見が似ていたら、ドン
ドンやってみてください。

02

長文問題で時間が足りなくなる人へ

「長文で時間が足りない……」

長文を本格的に解き出した時期によく出るのが「時間内に解き終わらない」という悩みです。

入試が徐々に近づいてきてあせる気持ちもわかりますが、まだこの段階では「解き方」を学んでいるわけで、きつちりとフォームを固めて、何度も練習して初めて、少しずつスピードが伴ってくるものです。

スポーツでも同じですが、フォームが固まっていないうちにスピードを意識すると、肝心のフォームが崩れます。美しいフォームはそれだけムダがないものです。

とは言っても、薬にもすが^{わら}る思いの受験生に「がんばっていればいつかできるようになるから」と言うだけでは芸がないので、長文で時間が足りない原因を具体的に指摘したいと思います。

時間が足りなくなる原因とその対策

長文で時間が足りなくなる原因

- ① 英文解釈の勉強が甘い
- ② 音読が甘い
- ③ 解くのが遅い

① 英文解釈の勉強が甘い

英文解釈に弱点があると、きちんと構文把握ができず、単語をつないだだけの和訳になります。そのため、英文の伝える意味が理解できず、何度も読み直しているうちに時間が足りなくなります。毎日のノルマに加えて「英文解釈の復習」をして

ください。つらいでしょうが、結局これが一番の近道です。

②音読が甘い

「だからあれだけ言ったのに……」と説教したいところですが、そんなことを言うてもできるようなりませんし、反省していても速く読めるようにはなりません。とにかく音読の習慣をつけること。これにつきます。僕は「時間内に読めない」と言っている人の99%は「音読をちゃんとやってないから」だと思っています。

①音読の大切さは144ページにて。

③解くのが遅い

読む速さというより、実は「問題を解くのが遅いだけ」ということもありえます。解くのが遅くなる原因は2つあります。

1つは「実は本文をちゃんと読めてない」のです。本文がきちんと読めていないので、まぎらわしい選択肢に惑わされ、選択肢を何度も読み比べて時間をロスするパターンです。

2つめは「設問解法」を知らないことで、ムダな時間を使ってしまうということ。設問別の対策を知らなかったり、長文の中の「文法の知識で解ける問題」を一

生懸命「文脈から」解こうとしたりすると、本来は無視していい選択肢まで吟味してムダな時間を使うことになってしまいます。

ただ解答とワンポイント解説だけ載せる問題集ではなく、しっかり「解法」を教えてくれる問題集を一度はやっておくとコツがつかめるようになります。

「泣きながら」でも英文を読んだ人が勝つ

長文の勉強というのは、けっこうメンタルがやられます。

文法ならば、できなくても「目の前の文法事項を覚えればいい」「類題を解けばいい」で解決できます。「やるのがハッキリしている」ので、精神的な負担が少ないんです。でも長文の場合、ハッキリとしたできない原因がわからないものです。いろいろな要素が絡み合っている可能性が高いので、なおさら途方に暮れてしまうわけです。

ここで心に留めてほしいことが2つあります。

1つは、そういう状態にならないためにも、英文解釈の勉強をしつかりこなすこ

英文法の発展
(整序・正誤・会話問題)の勉強法



整序が苦手……



解法のポイントが
わかった！

正誤が全然できない！



日本語に訳してるから
できないんだ！

会話って決まり文句の
暗記だよね



文法を使えば暗記は
減る！



今日は…
からは…

時間が足りなくなる原因を分析して、対策しよう！
「泣きながら」でも英文を読み続けた人が勝つ！！

とです。「落ち込んでから」回復しようとするのではなく、「そもそも落ち込まない」状態を少しでも目指すわけです。

2つめは、「泣きながら」勉強するということです。受からない人というのは、「できない・読めない」とずっと泣き言ばかり言います。受かる人は、決して泣いてないわけじゃありません。落ち込みます。ヘコみます。泣いています。でも「泣きながら」英語を読んでいるんです。

悩んでいる間に「少しでも英文を読む」という姿勢を忘れずに。

¹² この本の中で僕がやたら「英文解釈をきっちり」と言い続けてきたのは、こういう理由もあるんです。